



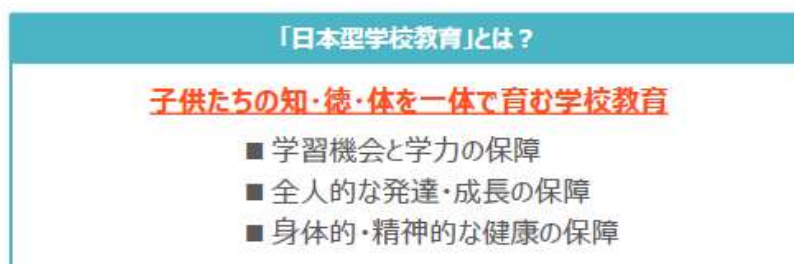
昨年から引き続き、職員室だよりを発行したいと思います。本校でも若手教員が多くなってきた中、授業づくりの基礎・基本を徹底するべく、いわゆる教育の「不易と流行」のうち、「不易」の部分について説明をしてきました。授業の「めあて」を提示しなければならないとわかっているにもかかわらず、真にその目的や意味が分かっているのかというと、なかなかそこまで考えてできているとは言えないのが現状だと思っています。「めあて」がいかに関心の核心に連結しているのか、授業評価とどんな関係にあるのかなど、説明をしてきました。次いで、「導入→展開→まとめ」の重要性や授業実践例も紹介してきました。今年度本校に異動してきた先生も是非、一読ください。(東中学校 HP の「研究活動」→「授業づくり通信」に掲載中)今年度も授業の基礎・基本を中心に他校での実践などを交えながら紹介できればと思います。

中教審(答申)があったのは知っていましたか?

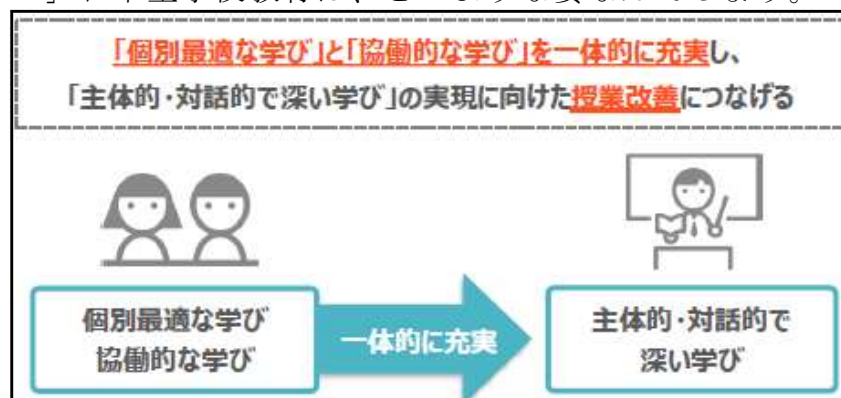
今回は、具体の授業づくりの話ではなく、いわゆる教育情報について紹介します。表題に書いた「中教審(答申)」ってなんだか知っていますか?よく、学習指導要領が改訂されるときによく聞く言葉だと思っています。学習指導要領が改訂される時、変更内容を示しているのが中教審から出されている答申内容になります。中教審の正式名称は、「中央教育審議会」というのが正式名称です。これは、文部科学省に置かれた審議会で、文部科学大臣の諮問機関になります。要するに、文部科学大臣が、「こんなこと考えて」と中教審に投げかけて、その回答が「答申」になり、その答申を受けて文部科学省が施策を決めていくという仕組みになっています。よって、過去の指導要領の改訂内容、例えば総合的な学習の時間の誕生や生活科の誕生、近年では道徳の教科化なども中教審の答申で示されたものになります。よく、中教審の答申で描かれた言葉がその時代の教育のキーワードになることが多いです。例えば、「アクティブラーニング」や「主体的・対話的で深い学び」だとか、われわれはこのキーワードに常に振り回されているのが現状だと思っています。それだけに、中教審(答申)で示されたキーワードを敏感に受け止め、次の時代の教育につなげていく必要があるのだと思います。では、中教審の答申はいつ出されているのかというと、案外毎年のように出されています。学習指導要領の改訂時に大々的に紹介されるので(雑誌の付録についてきたりも…)、その時にだけ出るように感じますが実はそうではありません。直近では令和3年1月26日に答申が出されています。今回は、この中教審(答申)のキーワードに触れていきたいと思っています。

今回の中教審(答申)の表題が「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」となっています。ここに、「令和の日本型学校教育」というキーワードが持ち出されています。果たして、日本型学校教育とはいかなるものなのかがわからないと、令和版も伝えられないことになります。日本型学校教育とは、知・徳・体を一体で育む学校

教育、すなわち本校の教育目標そのもので、すべての学校が掲げている教育目標のこととなります。



では、「令和の」日本型学校教育は、どのような姿なのでしょう。



1 つは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる、ということです。個別最適な学びとは、これまで「個に応じた指導」と言われた言葉が【教師視点】から【学習者視点】に変わったこととなります。内容が変わったわけではないので、子ども一人一人に応じた指導方法や教材の工夫を行うということで、決して「孤立した学び」を生み出さないように務めなければなりません。

2 つ目は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化することで「主体的・対話的で深い学び」を実現させていくということです。ということは、日々の授業で務めなければならないことは、「個別最適な学び」を実現できるよう個に応じた指導を行い、なおかつ「協働的な学び」を取り入れ、学びあいの力が身につくよう場面設定していくことが必要である、となります。そして、これらの指導方法が、子供の「主体的・対話的で深い学び」となっているよう、授業改善していかなければならないということとなります。

今回の中教審（答申）では、この解決方法として取り上げられたのが「ICT の充実」でした。確かにこの2つのキーワード「個別最適な学び」と「協働的な学び」を併せ持った授業方法は、タブレット等の ICT を活用することが、最も改善に近づけることができると思われます。本校においても GIGA スクールの配備も完了しています。これから、いかに中教審の答申を受け止めて、授業改善につなげていくことができるのか、ICT を活用した多くの実践例を生み出し、検証していくことが大事なことだなと感じています。先生方のさらなる挑戦に期待しております。

（今回の中教審（答申）の資料は、「職員室用」フォルダー → 「中山フォルダー」 → 「00_通信データ」 に入れています。興味のある方はご覧ください。）

・・・ to be continued ・・・